

### 3.6.1.1 変換実行

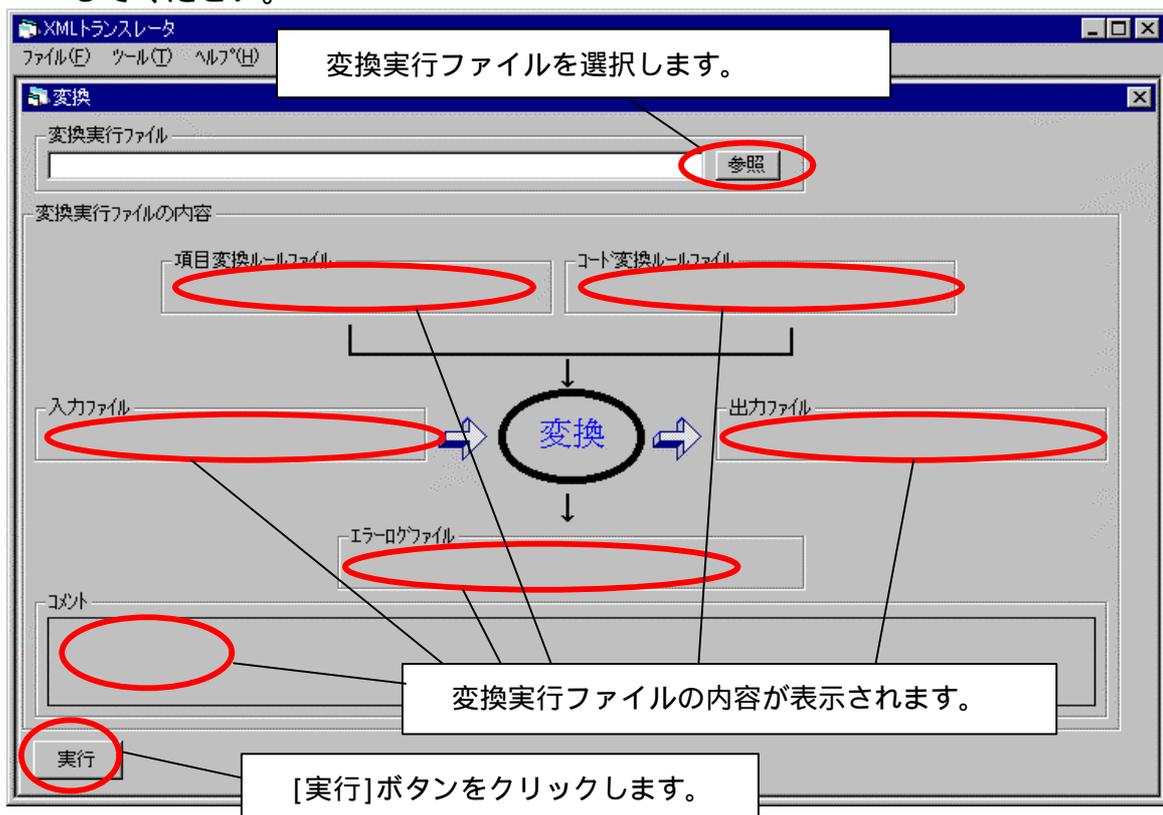
ここでは、変換実行ファイルを指定して、XML 非 XML 変換を実行するための操作方法を説明します。

- ・ 変換実行 ..... (1)参照
- ・ 実行結果 ..... (2)参照

(A) メニューより、[ツール(T)] [変換(C)]を実行します。



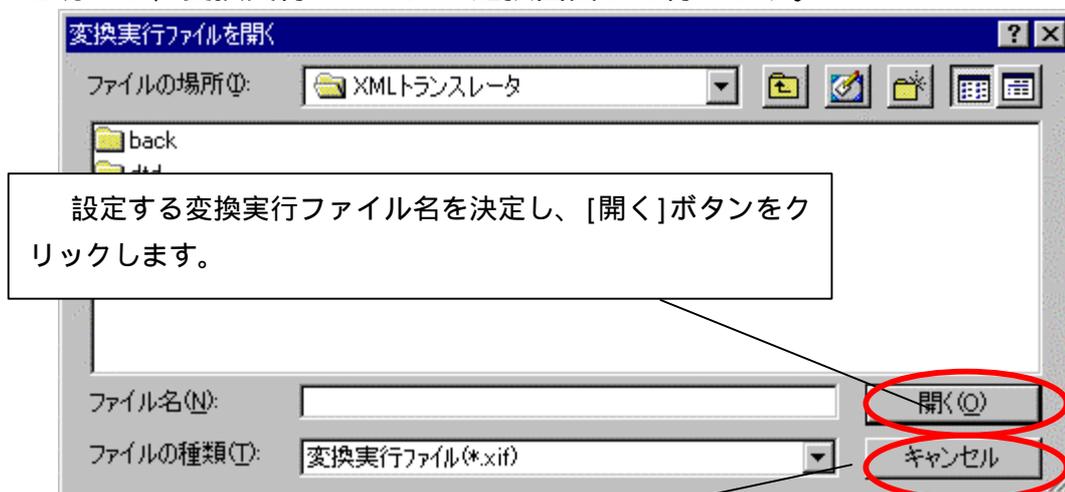
(B) 変換実行画面より、変換実行ファイルを選択して、[実行]ボタンをクリックしてください。



<補足事項>

ファイル名が長すぎて画面に表示しきれない項目は、その項目をマウスでクリックした後、カーソルキーを移動させることにより、見えない部分を表示させることができます。

(C) 変換実行ファイルの選択は、変換実行画面より[参照]ボタンをクリックすると現れる、変換実行ファイルの選択画面から行います。

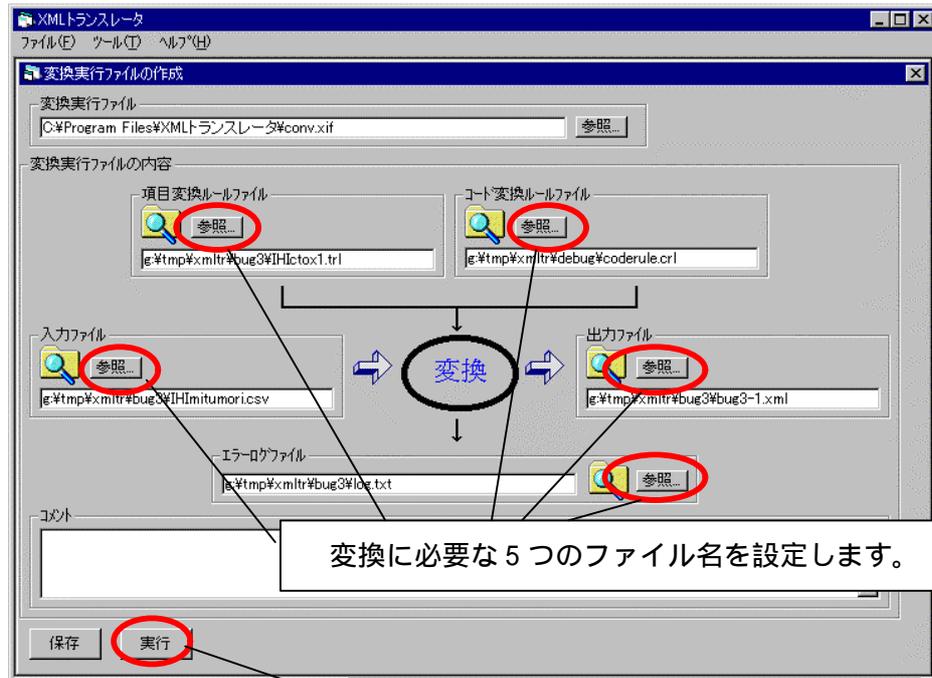


設定する変換実行ファイル名を決定し、[開く]ボタンをクリックします。

[キャンセル]ボタンをクリックすると、変換実行ファイルの設定を行いません。

## &lt;補足事項&gt;

変換の実行は、実行変換ファイルの作成画面から行うこともできます。この場合、項目変換ルールファイル、コード変換ルールファイル、入力ファイル、出力ファイルおよびエラーログファイルを設定してから、[実行]ボタンをクリックしてください。



変換に必要な5つのファイル名を設定します。

[実行]ボタンをクリックします。

## &lt;補足事項&gt;

XML 非 XML の変換を行うと、MGH(メッセージグループヘッダ)ごとに出力ファイルが生成されます。XML 非 XML 変換では、出力ファイル名に指定したファイルが生成されます(XML には MGH は 1 つしか存在しません)。非 XML XML 変換では、出力ファイル名に指定したファイル名の末尾に生成した順番の整数値(1、2、...)を付加したファイルを生成します。例えば、出力ファイル名に"c:¥windows¥temp¥foo.xml"を指定した場合、以下のようなファイルが生成されます。

c:¥windows¥temp¥foo-1.xml

c:¥windows¥temp¥foo-2.xml

...

(A) 変換が終了すると、ログファイルに出力した内容が、変換結果として表示されます。



<補足事項>

ログファイルへの出力は、追記で行われます。即ち、新しいログの内容は、ファイルの末尾に追加される形式となります。

<補足事項>

正常に変換が行われた場合、変換処理の結果として生成したファイル数が表示されません。エラーが発生した場合は、エラー内容が表示され、負の値が変換処理の結果となります(エラー内容に関しては「3 . 6 . 1 3 エラー時の対処法」をご覧ください)。